

1月

1月の取扱量は、牛 9,871 頭、豚 18,702 頭、1日平均取扱頭数は、牛 520 頭（前月比 89.6%）、豚 984 頭（前月比 118.1%）であった。

① 牛

最需要期である 12 月の翌月であるため、相場は総じて前月を下回ったものの、12 月の荷動きが良好だったことや、暦の関係で年始の初せりが遅かったことから、年明けから在庫の買い足しが続き、和牛及び交雑牛ともに、前年同月より主要な等級で値を上げた。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は、和牛 A4 2,338 円（前月比 116 円安）、交雑牛 B3 1,519 円（前月比 139 円安）であった。

② 豚

全国と畜頭数は 7 万頭を超える日が多く、安定した入荷となったことや、暖冬により鍋物需要が伸びなかったこと等から、上物相場が 400 円台と軟調に推移し、前月及び前年同月より値を下げた。

豚生体枝肉（上）の月間平均価格は 491 円（前月比 60 円安）であった。

2月

2月の取扱量は、牛 9,522.5 頭、豚 18,468 頭、1日平均取扱頭数は、牛 501 頭（前月比 96.5%）、豚 972 頭（前月比 98.7%）であった。

①牛

例年 2 月は不需要期で相場も低迷する時期だが、和牛は、東京市場のと畜頭数が少なかったこともあり、前月を下回るものの前年同月比では上回った。交雑牛は、同様に頭数が少なかったことに加え、輸入牛肉の高騰等を背景に値頃感のある交雑牛に引合いが強まったこともあり、前月及前年同月を上

回った。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は、和牛 A4 2,278 円（前月比 60 円安）、交雑牛 B3 1,556 円（前月比 37 円高）であった。

③ 豚

前半は、3 連休への手当に加え、関東甲信地方の大雪で出荷や物流に影響が出たことなどから相場は急騰し、上物相場が 600 円を超える展開となった。後半は、全国と畜頭数が 7 万頭前後と安定したことから、相場は下げ基調となった。

豚生体枝肉（上）の月間平均価格は 594 円（前月比 103 円高）であった。

3月

3月の取扱量は、牛 11,533.5 頭、豚 19,253 頭、1 日平均取扱頭数は、牛 577 頭（前月比 115.1%）、豚 963 頭（前月比 99.0%）であった。

①牛

物価高による消費者の生活防衛意識は高く、和牛の相場は前月及び前年同月を下回ったが、交雑牛は、引き続き量販店需要などから堅調に推移し、前月は下回ったものの前年同月を上回った。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は、和牛 A4 2,191 円（前月比 87 円安）、交雑牛 B3 1,541 円（前月比 15 円安）であった。

②豚

前半は、全国と畜頭数の伸び悩みもあり、上物相場が 500 円台半ばで底堅く推移した。後半は、全国と畜頭数が増えたことや春休みに入り学校給食が終了したことに伴う需要の減少などにより、相場は下落した。

豚生体枝肉（上）の月間平均価格は 549 円（前月比 45 円安）であった。

4月

4月の取扱量は、牛 12,700.5 頭、豚 18,561 頭、1日平均取扱頭数は、牛 605 頭（前月比 104.9%）、豚 884 頭（前月比 91.8%）であった。

①牛

例年、ゴールデンウィークに向けた手当などから前月を上回る相場展開となるが、消費者の節約志向は根強く、和牛相場は、去勢を中心に前月を下回り、前年同月比は主要な等級で軒並み下回る結果となった。一方、交雑牛は、和牛や高騰する輸入牛肉の代替需要から、主要な等級で前月及び前年同月を上回る相場となった。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は、和牛 A4 2,185 円（前月比 6 円安）、交雑牛 B3 1,607 円（前月比 66 円高）であった。

②豚

全国と畜頭数が減少したこと等から徐々に相場が上がり、中旬以降は学校給食の再開による需要の増加とともに、連休に向けた手当が活発となったため、月末には上物相場が 600 円台後半まで上昇した。

豚生体枝肉（上）の月間平均価格は 613 円（前月比 64 円高）であった。

5月

5月の取扱量は、牛 10,778 頭、豚 17,860 頭、1日平均取扱頭数は、牛 490 頭（前月比 81.0%）、豚 812 頭（前月比 91.8%）であった。

① 牛

物価高による消費者の生活防衛意識は高く、和牛の相場は前月及び前年同月を下回ったが、交雑牛

は、量販店などからの輸入牛肉の代替需要等が堅調で、主要な等級の相場が前年同月を上回った。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は、和牛 A4 2,141 円（前月比 44 円安）、交雑牛 B3 1,590 円（前月比 17 円安）であった。

② 豚

中旬以降、東日本を中心に気温が高くなったことや、昨夏の猛暑による影響等から、全国と畜頭数が減少し、上物相場は上昇した。さらに、下旬には、栃木県、岩手県で豚熱が発生したため、上物相場が 800 円台まで急騰した。

豚生体枝肉（上）の月間平均価格は 714 円（前月比 101 円高）であった。

6月

6月の取扱量は、牛 11,128.5 頭、豚 14,325 頭、1 日平均取扱頭数は、牛 556 頭（前月比 113.6%）、豚 716 頭（前月比 88.2%）であった。

①牛

和牛は、引き続き消費マインドの冷え込みから続落し、相場は前年及び前年同月を下回った。交雑牛は、弱含みとなり前月相場を下回ったものの、輸入牛肉高騰による代替需要の継続などから、前年同月を上回った。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は、和牛 A4 2,001 円（前月比 140 円安）、交雑牛 B3 1,516 円（前月比 74 円安）であった。

③ 豚

相場は、一時値を下げる場面があったものの、全国と畜頭数が 6 万頭を割る日も多く、また輸入豚肉の高騰による代替需要もあり、上物及び中物の月間平均で 700 円を超える高値となった。全ての等級で相場が前月及び前年同月を上回った。

豚生体枝肉（上）の月間平均価格は753円（前月比39円高）であった。

7月

7月の取扱量は、牛 12,509.5 頭、豚 17,426 頭、1日平均取扱頭数は、牛 569 頭（前月比102.2%）、豚 792 頭（前月比110.6%）であった。

①牛

旧盆商戦も振るわず、引き続き和牛の相場は下落し、前年同月及び前月を下回った。交雑牛は、和牛や高騰する輸入牛と比較し、価格面などの理由で引合いが強く、前年同月及び前月を上回る相場となった。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は、和牛 A4 1,989 円（前月比12円安）、交雑牛 B3 1,575 円（前月比59円高）であった。

④ 豚

昨年及び今年の記録的な猛暑により、種付けや成育に影響が出たこと等から、全国と畜頭数は6万頭を割る日が続き、加えて輸入豚肉の代替需要もあり、相場が続伸した。上物相場は一時900円を超え、月間平均では約40年ぶりに800円台の高値を記録した。

豚生体枝肉（上）の月間平均価格は831円（前月比78円高）であった。

8月

8月の取扱量は、牛 10,417.5 頭、豚 17,517 頭、1日平均取扱頭数は、牛 521 頭（前月比91.6%）、

豚 876 頭（前月比110.6%）であった。

① 牛

食料品を中心とした物価上昇や、地震や台風等の影響による業務需要の減少等の要因により、和牛の相場は軟調に推移した。交雑牛は、前月と同様に代替需要等から、相場が前年同月を上回り、前月比で横ばいとなった。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は、和牛 A4 1,993 円（前月比 4 円高）、交雑牛 B3 1,577 円（前月比 2 円高）であった。

② 豚

全国各地で猛暑日が続き、全国と畜頭数が少なかったこと等から、上物相場は中旬まで 800 円前後の強保合となった。下旬は、台風の影響もあり、全国と畜頭数が引き続き少なかったにも関わらず、上物相場が 600 円台まで下落した。

豚生体枝肉（上）の月間平均価格は 764 円（前月比 67 円安）であった。

9月

9月の取扱量は、牛 10,902 頭、豚 18,004 頭、1日平均取扱頭数は、牛 574 頭（前月比 110.2%）、豚 948 頭（前月比 108.2%）であった。

① 牛

和牛の相場は、連休需要などから多くの等級で前月及び前年同月を上回ったものの、A 5 等級は前年同月を下回り、消費者の節約志向による和牛相場の低迷は続いている。一方、交雑牛の相場は続伸し、前月及び前年同月を上回った。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は、和牛 A4 2,076 円（前月比 83 円高）、交雑牛 B3 1,601 円（前月比 24 円高）であった。

② 豚

前半は、記録的な暑さにより全国と畜頭数が低迷する中、連休手当による需要等から、上物相場が 700 円前後の高値で推移した。後半は、全国と畜頭数の増加に伴い、上物相場が 500 円台まで急落した。

豚生体枝肉（上）の月間平均価格は 665 円（前月比 99 円安）であった。

10月

10月の取扱量は、牛 12,806.5 頭、豚 20,798 頭、1日平均取扱頭数は、牛 582 頭（前月比 101.5%）、豚 945 頭（前月比 99.8%）であった。

① 牛

消費者の節約志向の継続等から、和牛、交雑牛ともに低等級で前年比を上回る堅調な相場展開となった。年末に向け、交雑牛から和牛への一部回帰が見られ、相場は、和牛は前月を上回り、交雑牛は前月を下回った。

牛枝肉（生体去勢）の月間平均価格は、和牛 A4 2,103 円（前月比 27 円高）、交雑牛 B3 1,571 円（前月比 30 円安）であった。

③ 豚

前半は、残暑による生育不良等から、全国と畜頭数が伸び悩み、相場は高値で推移した。後半は、全国と畜頭数の増加に伴い、一時的に弱含みとなったものの、輸入品の入船遅れ等の影響から、国産豚肉の需要が高まり、相場は堅調に推移し前年同月を上回った。

豚生体枝肉（上）の月間平均価格は 619 円（前月比 46 円安）であった。

11月

11月の取扱量は、牛 14,018.5 頭、豚 20,842 頭、1日平均取扱頭数は、牛 668 頭（前月比

114.7%)、豚 992 頭 (前月比 105.0%) であった。

① 牛

東京市場で共励会などのイベントが多く開催されたことや、例年より早く年末需要の手当の動きが始まったことから、相場は、和牛 A 5 等級は前年同月を下回ったものの、和牛、交雑牛ともに他の主要な等級では前月及び前年同月を上回った。

牛枝肉 (生体去勢) の月間平均価格は、和牛 A4 2,377 円 (前月比 274 円高)、交雑牛 B3 1,589 円 (前月比 18 円高) であった。

② 豚

全国と畜頭数が増加基調となり、また年末の最需要期前で荷動きに一服感がみられ、上物は概ね 500 円台半ばで推移し、前月より下落したものの、後半はやや反発し、前年同月は上回った。

豚生体枝肉 (上) の月間平均価格は 570 円 (前月比 49 円安) であった。

1 2 月

1 2 月の取扱量は、牛 14,199 頭、豚 21,403 頭、1 日平均取扱頭数は、牛 592 頭 (前月比 88.6%)、豚 892 頭 (前月比 89.9%) であった。

① 牛

牛肉の最需要期を迎え、和牛、交雑牛ともに主要な等級で概ね前月及び前年同月を上回ったが、和牛 A 5 等級は前月に続き、相場は前年同月を下回った。

牛枝肉 (生体去勢) の月間平均価格は、和牛 A4 2,474 円 (前月比 97 円高)、交雑牛 B3 1,663 円 (前月比 74 円高) であった。

② 豚

全国と畜頭数があまり伸びず、年末年始の需要に向けた手当が本格化したことから、相場は高値で推

移し、前月及び前年同月を上回った。

豚生体枝肉（上）の月間平均価格は637円（前月比67円高）であった。